

おごせ 教育 Pick Up



越生小学校

10月3日には福祉協会の方をお招きし、「アイマスク体験授業」をしました。体育館に設けられたコースを2人で歩きますが、サポートの児童がアイマスクをしている児童に声をかけながら体験活動を行うことができました。

梅園小学校

6年生が修学旅行に行ってきました。1日目は鶴岡八幡宮をスタートし班別に行動しました。2日目は雨に降られ、予定していた芦ノ湖の遊覧船には乗れませんでした。箱根関所・資料館、小田原城を見学しました。本当に楽しい充実した修学旅行でした。



越生中学校

10月12日2年生は進路指導の一環として、県立・私立4校の先生をお招きして、進路学習会を行いました。各校の先生から高校の授業や部活動、今後の中学校生活の過ごし方など、具体的なお話をいただき、生徒は自分の将来をみつめる良い機会となりました。



おごせっ子広場

町内の小中学校や町の行事等に参加する子どもたちを写真で紹介するコーナーです。

山吹保育園では、四年前からハロウィンパーティをしています。第一部は一人ひとり作った衣装を身にまとい、みんなにお披露目します。小さいお友達のクラスは集団で「ハイポーズ!」。年長さんは一人ひとり設計図を作り、それに基づいて切ったりはったりしながら、時には失敗もして作った衣装で、何に変身したかを発表します。想像力を膨らませ、それを形に変えた子どもたちのキラキラした笑顔が素敵な発表会です。

第二部はその衣装を着て、



山吹保育園

外に繰り出します。お花屋さん、会館さん、リサイクルのお店、そして、ボランティアに来てくれる清和学園高校。「お菓子くれないといたずらしちゃうぞ」というと、お菓子をくださいます。

このような行事ができるのも、地域のみなさんのおかげです。子どもたちの夢を育て、地域のみなさんから愛される保育園を目指し、これからも頑張っていきます。



越生浪漫

No.106

摩多利神社の
「東北紀行碑」(大谷)



摩多利神社の祠と「東北紀行碑」

六地藏交差点近くに鎮座する、摩多利神社の祠の横に立つ石碑を紹介します。祠を護持されている仲島尚一氏の曾祖父庄三郎(荘岳)氏ら一行の東北旅行記念碑です。
【碑表】(篆額)「出羽月山湯殿」
東北紀行
明治戊申の秋、奥羽三山に詣せんとして相謀り、八月十日出発、熊谷より汽車に乗り、本庄高崎、水尾路を過ぎ、浅間煙山に攀ち、名月の姥捨、仏都の如来、戸隠の神霊を順拝し、田口、関山、高田

より、遙に仰く妙光山、春日山上杉神社、直江津、米山、柏崎、長岡と見聞し、下手に越の道、別て弥彦宮居を伏し拝み、西生寺、国上寺に賽し、新潟白山の千代の松、萬代橋より日和山、銀河横たふ佐渡ヶ島、指折算ふ七不思議、菅谷寺や乙宝寺、石船より蒸船にて笹川流、鼠ヶ関、奇巖異石の沿岸を経て、三瀬浦に上陸し、湯田川温泉に浴み、金峰山、鶴岡市庄内神社より手向村羽黒の社務所に到り、三山の神前に畏つ、御神樂や日月牌を拝受せり、月の御山は万餘尺、湯殿羽黒は右左、千歳戴く四時の雪、昼夜の烟、瀧の白糸、梵字川、聴も語るな語るも聴くな古諺に残せし恋の山路を本道寺に下山し、八聖山、大沼山、山形市山寺の仙境より、作並温泉、定義大士を経て、仙台市に臻り、青葉の名刹招魂社、政宗卿の霊廟や桜榴の二公園、多賀城跡、壺の碑、沖の石、末の松山波の痕、野田玉河を詣遊し、鹽釜神社に跪き、船を泛めて松島の藻汐の海を遊覽し、瑞巖寺、観瀾亭、五大堂、福良島、雄嶋、大高森、富山を通観せる絶景は唯嗟と讃えつゝ、小野、石の巻、四十八坂峠越し、金華山に参登し、鮎川浜を出て、又塩釜浦に入り、鉄路海岸線に転じ、相馬、中村、磐城平を過ぎ、勿来の関に懐古の思想を増し、水戸市常磐神社に欽仰し、公園の梅林、借楽園、好文亭、弘道館を巡覽し、磯浜大

洗社頭より刀水の北浦を航し、鹿島、香取、息栖の三社を拝し、成田山に籠り、一旦東都に上り、車馬を旋して氷川大社に征旅の無恙を奉告し、故山に社八帰杖しけれ一行の経陰殆と三十日、茲に巡遊の梗概を録して、同士の紀念となすこと爾り
いくあかく かみもほとけを
あるきつつ ひとのみちふむ
やまかはのあき(※戊申の異称)
明治四十一年著雅濱灘秋日
古松軒 仲島荘岳 篆額
藤原庸治 久雄合議撰
健順居士人篆書回
松山町 石材店 宮下清溪刻
【碑裏】 明治四十一年戊申八月十二日参拜 壬子四月吉辰建之
講 長 大谷 仲島庄三郎
世話人 全 石井庸治郎
全 高坂才治郎
全 深田吾作
全 戸口團次郎
成瀬 平沼子之吉
大谷 深田甫次郎
全 深田重平
全 原 萬吉
田中 森下熊次郎
小杉 上 兼吉
全 吉澤由太郎
龍谷 宮崎市五郎
故 大谷 奥富長三郎
全 原 松五郎
(※旧字は新字に改め、るび・説点を付した
解説は、間々田和夫氏の助言・助言による)

おごせ 昆虫と自然の館 通信 No.65

菜園のキュウリの害虫
ウリハムシ
「コウチュウ目ハムシ科」

秋が深まると、日なたぼつこをするかのように陽だまりの壁に昆虫が集まります。よく観察すると、薄茶色の体色で体長は6~7mmの、コガネムシのような昆虫が混ざっています。キュウリやカボチャを栽培する人にはおなじみの、ウリハムシです。初夏にこれらの植物を定植すると、どこからとなく集まり、葉に丸い食痕を残しながら食い荒らします。ハエのようによく飛ぶのでウリバエの別名があります。◆この害虫は、本州以南、東南アジアに広く分布するウリ類の大害虫ですが、キク科のアスター類やカーネーションなどのナデシコ類の葉も食べます。キュウリやズッキーニでは、幼虫が根を集団で食



キュウリの葉を食害するウリハムシ

べるため、急に枯れ始める被害が生じ、地下部を調べると大量の幼虫を発見することがあります◆一般的な生産農地では、常態的に薬剤散布が行われているためあまり問題になりません。しかし、菜園のウリ類や前記の花の栽培農家では大変な困りものです。薬剤による防除対策も有効ですが、シルバーマルチ栽培を行うことで飛来を抑制できます。また、移植直後の防虫網も有効です◆初冬の晴れた日、陽だまりで本種を発見して、「畑での憎き敵」と思いつつ、越冬に入る個体を捕殺したところで、防除に有効とも思えず、複雑な気持ちになります。(江村 薫)